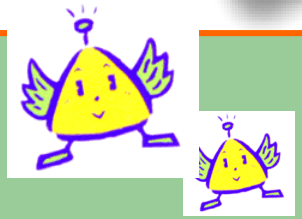
「保健医療福祉の一体化」から「保健医療福祉を中心としたまちづくり」への展開

哲西町役場理事　哲西町診療所長
佐　藤　　勝

佐藤　勝 医師 のプロフィール

昭和63年自治医科大学卒業後、出身県の島根県立中央病院で2年間の臨床研修、島根県組合立隠岐病院内科医長（隠岐島後）を経て、平成4年同県都万村国保診療所長（隠岐島後）。その後、島根県立中央病院地域医療科医長、島根県成人病予防センター医長などを歴任し、再度平成9年より都万村国保診療所長、都万村保健医療福祉総合センター所長。平成13年4月より岡山県哲西町役場保健医療担当理事、また同年11月より哲西町診療所長を兼ねる。

哲　西　町（てっせい）



国指定天然記念物　鯉が窪湿原

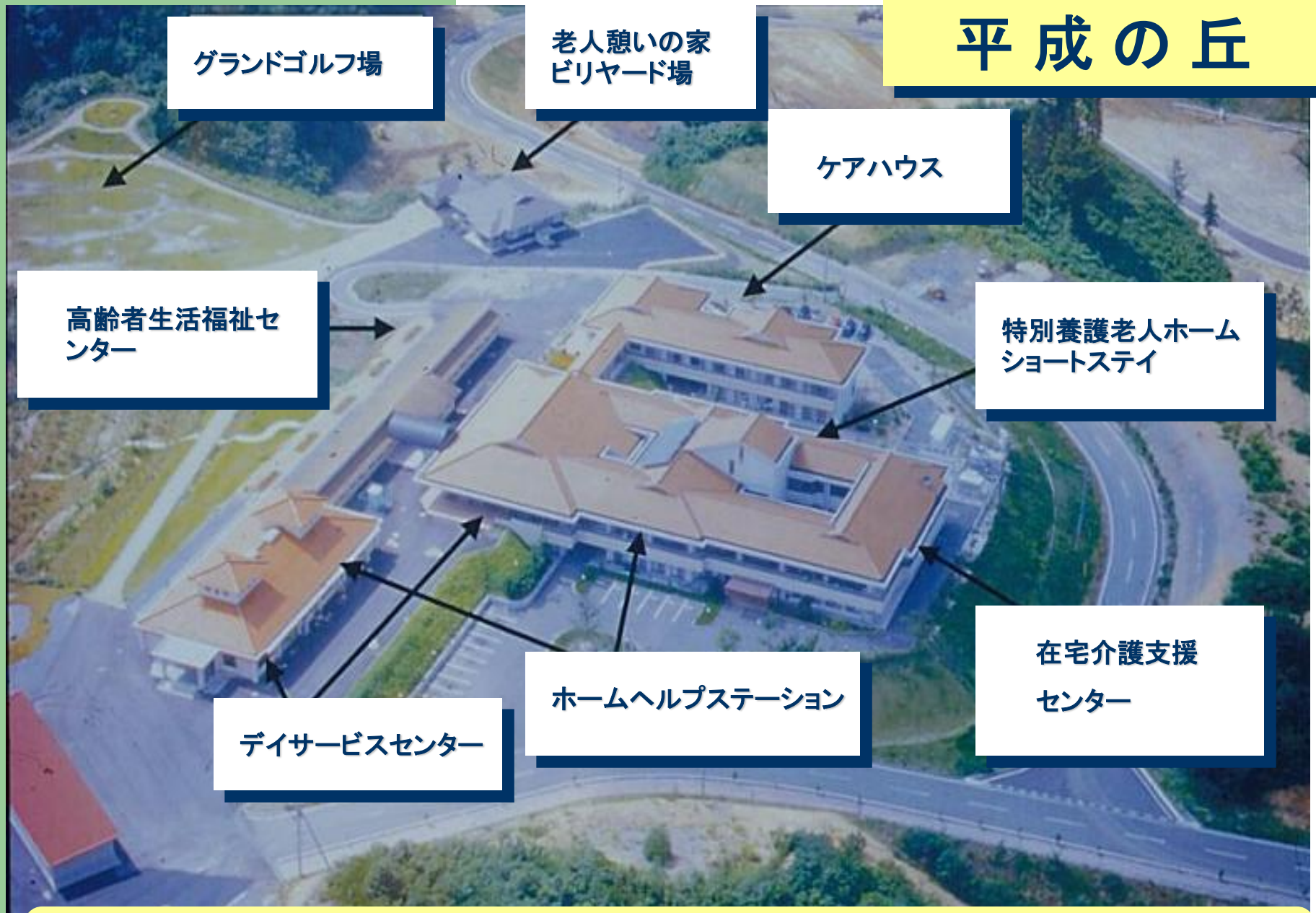
人　　口	約3，300人
世　帯　数	1，083世帯
面　　積	76．29㎢
高齢化率	36％
独居老人	175人

哲西町は吉備高原の西部、中国山地の南部に位置し、高原と山林で占められている。中東部には「西の尾瀬」と呼ばれる国指定天然記念物「鯉が窪湿原」がある。平成17年3月、新見市、大佐市、新郷町、哲多町、哲西町が合併し、「新見市」となった。

国指定天然記念物　鯉が窪湿原

　鯉が窪の面積は約2．7ha。湿原はこの池の上流に広がり、1周すれば2．4kmある。この湿原には、満朝系の残留植物をはじめ、日中共通植物や寒地植物、日本固有植物等、約300種類を超える植物が自生している。オグラセンノウ、ビッチュウフウロ、ミコシギクなど貴重な植物が多数生育し、これは、標高550mの中層地にある湿原としては極めて珍しく、「鯉が窪湿原性植物群落」として昭和54年国の天然記念物に指定された。

平成の丘



平成3年から平成7年にかけて、町内がほぼ一望できる高台（平成の丘）に総合福祉施設を新設し、在宅福祉と施設福祉が一元的に整備された。

哲西町の町づくりについて
最近良くなったもの、今後力を入れるべきもの
（35項目の中から5つまで選んで下さい）

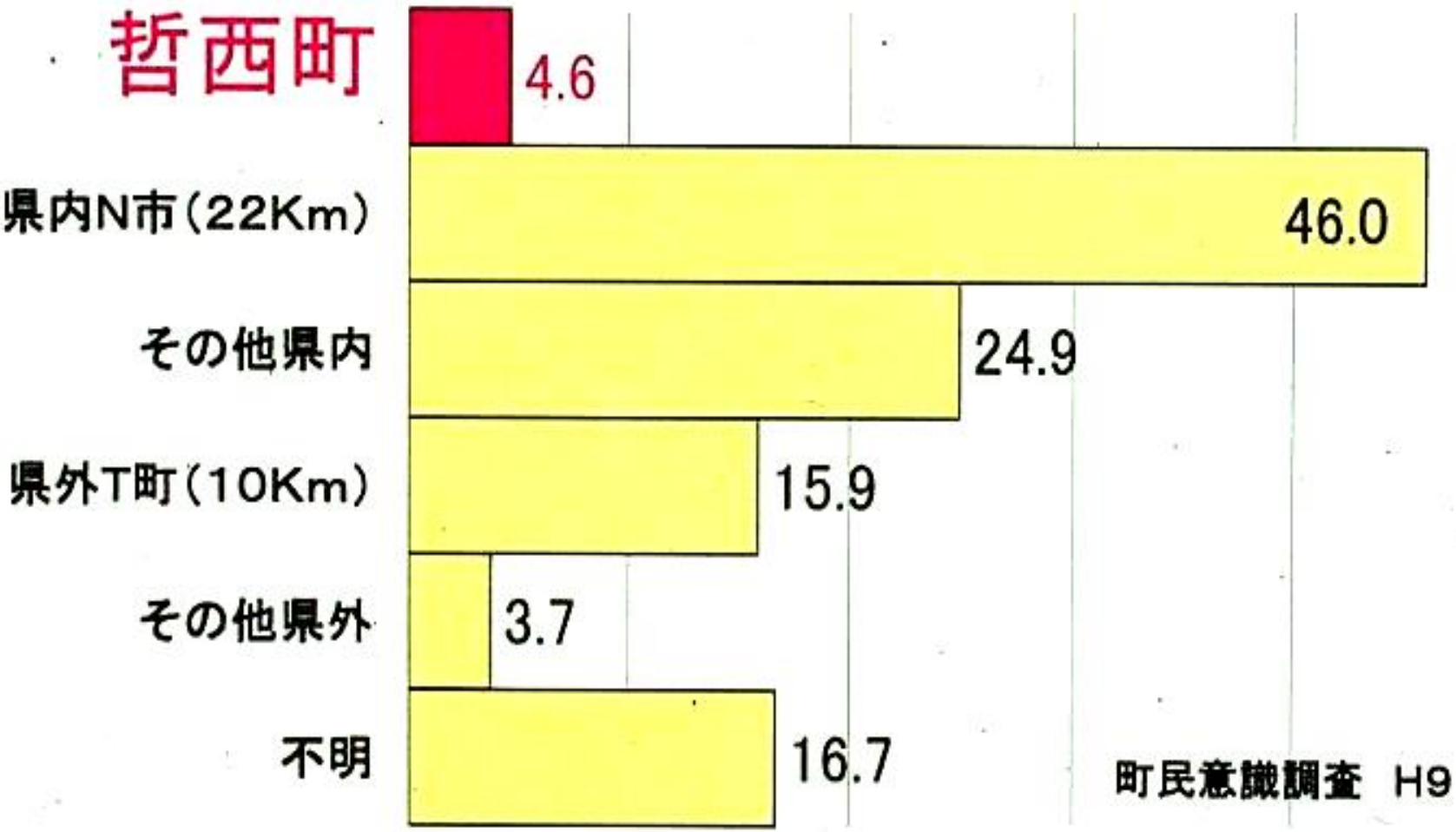
町づくりの35項目のうち	最近良くなったもの（%）	今後力を入れるべきもの（%）
道路整備	1位　52.0	3位　18.4
高齢者福祉	2位　36.6	13位　12.8
保健・医療の充実	21位　5.2	1位　35.2

町民意識調査　H9

平成9年に町民意識調査を実施。「良くなった」との回答が高齢者福祉は高かったが、保健医療では低く、「今後力を入れるべき」がその7倍にのぼり、35項目中1位であった。町民は、福祉は充実したが、保健医療の充実を切望している実態が明らかになった。

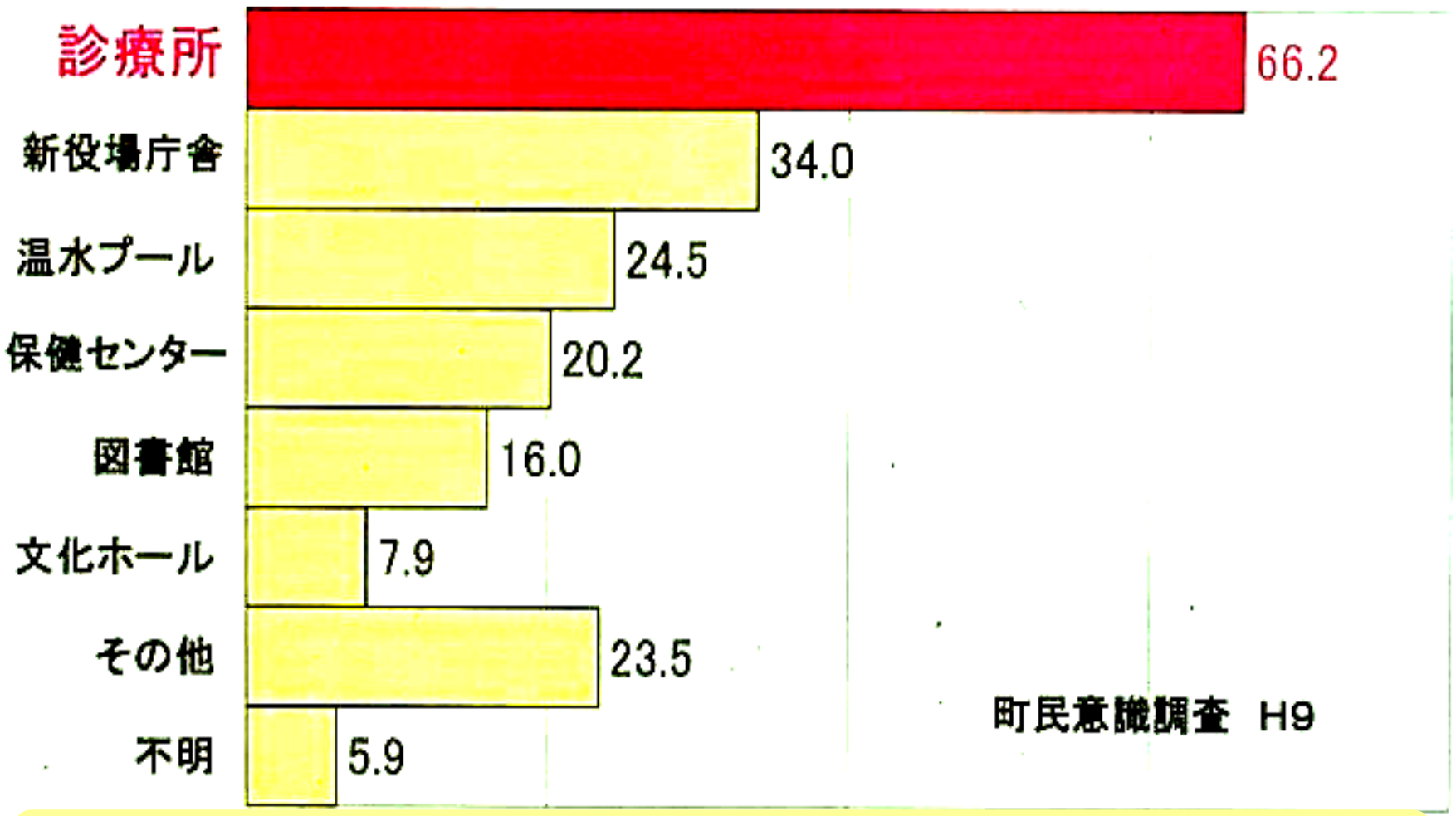
病気などの治療をする場合、どこへ出かけますか？
（最も多く利用する場所）

（%）



町内での、病気などの治療は4．6%と非常に少なかった。

哲西町では今後どのような施設が必要だと思いますか？　3つまで選んで下さい。（%）



「必要な施設」では診療所が最も多く、3分の2の人が希望した。町内の医師が高齢でほとんどの患者が町外に流出する中、町内で受診できる診療所新設の要望が強いことが伺えた。

哲西町民総合センター
「きらめき広場・哲西」

・役場本庁
・内科診療所
・歯科診療所
・保健福祉センター
・生涯学習センター
・図書館
・文化ホール

町民医療センターに、医療を中心とした行政、教育、文化、保健、福祉等を集積し、町の核となる構想が示された。
その矢先、町内唯一の内科医院、歯科医院が相次いで閉院となり、全国でも珍しい無医町となり、町民の声が更に大きくなった。

きらめき広場　哲西

「きらめき広場　哲西」は平成13年に竣工し、1年2ヶ月続いた無医町も解消された。当センターは円のような構造で、職員、町民がお互いに行き来しやすい構造となっている。全国でも全く新しいタイプの複合施設であり、診療所が役場の中に設置されることも珍しい。医師が町長、教育長と同居することで、「町の方向性」について、随時、的確に提言でき、最重要政策である地域包括医療の実践へとつながった。

ヘリカルＣＴ

電子内視鏡

CO健康・体力診断システム

センターの中央入口正面には、無人健康診断器や健康器具が設置されている。

歯科診療所

機能訓練室・プレイルーム

栄養改善室

きらめき広場・哲西

哲西町図書館

TESSEI TOWN PUBLIC LIBRALY

文化ホール

議　場

構内ポケット呼び出しシステムを導入し、診療の待ち時間を利用して、読書や趣味に有意義に時間を使える。診療所に来た高齢者が図書館で子供と触れ合うことも出来る。

哲西町独居老人対策

独居老人１７５人（H14.5.1現在）

- 緊急通報システム拡充
- 保健師増員で状況把握・訪問強化
- ホームヘルパーによる軽度生活支援・安否確認
- 民生委員による訪問
- 給食サービスにおける安否確認
- 地区老人会の活動強化
- 各地区ミニデイサービスの拡充

元気な独居老人が亡くなって数日後に発見されたことを教訓に、上記のような対策が町の施策に反映できた。これも医師と町長とが施設内に同居し、話がスムーズに出来たからである。

診療所での診察風景（一番右側が佐藤勝医師）

複合型施設建設後の新規事業

～保健医療福祉の連携強化、
そして教育・文化・産業などとも連携を～

・基幹型在宅介護支援センター設置

・保健師３名へ増員、管理栄養士採用

・健康づくり推進協議会の実働化

・地域ケア会議のメンバー構成拡大化

・保健医療福祉関係者研修会

・子どもの健康づくりネットワーク事業

・各地区基本健診結果説明会への医師の参画

・健康福祉まつりの幅広い参画

町では、ハード事業がほぼ終了し、健康づくり等のソフト事業に大きく事業転換した。

地域ケア会議

ケア会議は月１回、個々のケースの検討を行い、今後の方針を話し合っている。場合によっては、制度新設や変更を提言する等、施策にも反映している。医師、歯科医師も参加し、毎日訪問するヘルパーの情報を十分生かしている。

哲西町診療所の運営方針

ー「日常診療だけの診療所」というイメージをくつがえすー

・かかりつけ医（町内唯一の医療機関） ー あらゆる科の一次医療

いつでもどこでも相談にのれる医療

・適切な診断 ー 高度医療機器（ヘリカルCT、電子内視鏡＜胃・大腸＞、骨密度測定装置、カラードプラー付超音波装置、無散瞳式眼底カメラ等）を 駆使

・病 診 連 携 ー 他入院時、退院時、紹介状等で紹介先医療機関との適切な情報伝達

⇒ しっかりした適切な医療の展開

・予 防 医 学 ー 保健啓発活動、健康教育、早期発見、町の健診（検診）のアフターケア

・出 前 医 療 ー 訪問診療、往診、訪問看護、在宅終末期医療等

⇒ 保健・福祉との連携強化、更に教育・文化・産業等とも連携

➡ 地域包括ケアの中核ー住民の健全な生活を支える

哲西町健康づくり推進協議会

委員２０名

議会議員
町内医師
町内歯科医師
小中学校長
特別養護老人ホーム哲西荘長
社会福祉協議会事務局長
保健所長
民生委員の代表
栄養改善協議会長
愛育委員代表
婦人協議会長
主任児童委員
老人クラブ連合会長
PTA会長代表
ボランティア協議会長
教育委員会事務局長
商工会経営指導員
幼児学園長
体育協会

健康づくり推進協議会では、各世代における健康づくりの意見を聞き施策に反映している。

備北民報
第6955号
平成14年（2002年）
10月8日 火曜日
備北民報株式会社
〒718-0003 岡山県新見市高尾2485-8
電話0867(72)0678 FAX0867(72)0635
http://www.bihoku-minpou.co.jp/ www.bihoku-minpou.co.jp/i/

児童・生徒らの血液検査実施

県下で初めての試み

哲西町 子どもの健康づくりネット事業

成長期の児童・生徒に生活習慣を見直してもらおう―。哲西町は7日、県の補助を受けた「子どもの健康づくりネットワーク事業」を行い、町内の児童・生徒、保護者を対象に血液検査を実施した。県下では初の試みだ。（桂）

公共下水道や「きらめき広場・哲西」の建設など主なハード事業が完了した同町は今年度、行政サービスの中心に「町民の健康づくり」を据えてハード事業からソフト事業へと転換。全国的にコレステロールや血糖値の高い児童・生徒がいることから、事業に着手した。児童・生徒、保護者までを巻きこんだ血液検査は県下で初の試みだという。

血液検査に備え、同町は6月に診療所の佐藤勝医師が各校に出向いて健康講演会を行ったほか、9月には保護者を対象にした説明会や食事に関する調査なども実施。本番のこの日は矢神、野馳両小学校の4年生33人、6年生27人、哲西中学校の2年生34人、それに保護者ら計179人が参加し、「きらめき広場・哲西」機能訓練室で体脂肪測定をしたあと、阿新健康管理センターの看護師が手際良く3ccを採血し、検尿も行った。

採血に臨む児童＝「きらめき広場・哲西」で

阿新健康管理センターによる検査結果はいったん同町に戻り、身長と体重を参考に肥満度を算出する「ローレル指数」などとともにデータ処理したのち、年内に本人あるいは保護者に知らせるという。

昨秋、「きらめき広場・哲西」が完成したことで、同町では医療機関の積極的な支援が得られるようになった。家庭、学校、医療、地域、行政が一体となって子供の健康づくりに力を入れる方針で、同町健康福祉課は「毎年、血液検査を行って追跡調査をしたい」と話している。

食生活を見直して

哲西町子どもの健康づくり事業

哲西町は31日、「きらめき広場・哲西」調理室で親子料理教室を開き、哲西中学校（角田須美男校長・84人）の2年生22人と保護者に食生活を見直してもらった＝写真下。

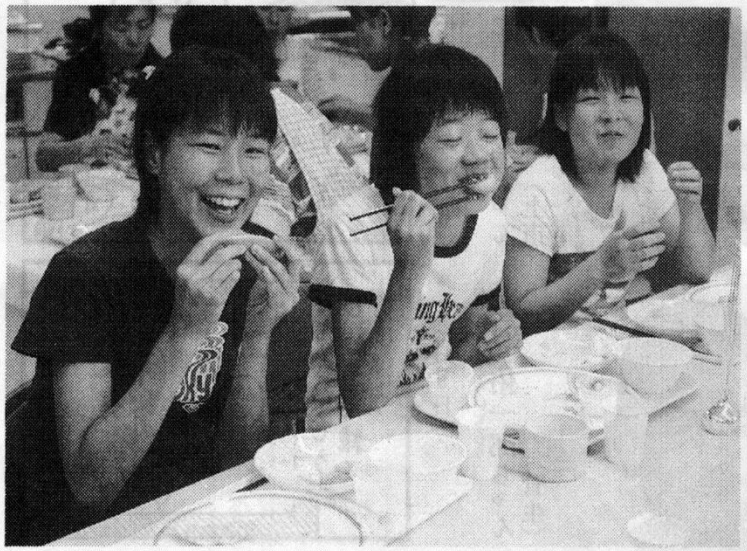
行政サービスの中心に「町民の健康づくり」を置いている同町は、全国的にコレステロール値や血糖値の高い児童・生徒がいることを受けて昨年度から、「子どもの健康づくりネットワーク事業」に着手。町内の小学校4年生、6年生、中学校2年生、それぞれの保護者を巻き込んで血液検査を実施するなど、成長期の子供たちに生活習慣を見直し改善してもらうきっかけを提供している。

今回の料理教室も事業の一環。この日は、青大豆きなこ揚げパン、カボチャの冷製スープ、ヒジキのサラダなど13品を調理した。出来上がった料理は血、肉、骨になるもの、体の調子を整えるもの、熱や力の基になるものの3種類に分けて並べ、バイキング方式で試食。管理栄養士が「バランスを考えながら食事を取ることが大切」とアドバイスした。

また、食事のあと、部活動などから離れると運動不足になりがち―と、保健士が簡単な運動を指導した。

町は来年度以降も事業を継続する考え。この日も食事調査を行ったが、これらの検査や調査の結果を基に児童と保護者へ適切な指導を行うという。（広瀬）

太陽光発電はラックへ 新見市高尾 ☎72-7779

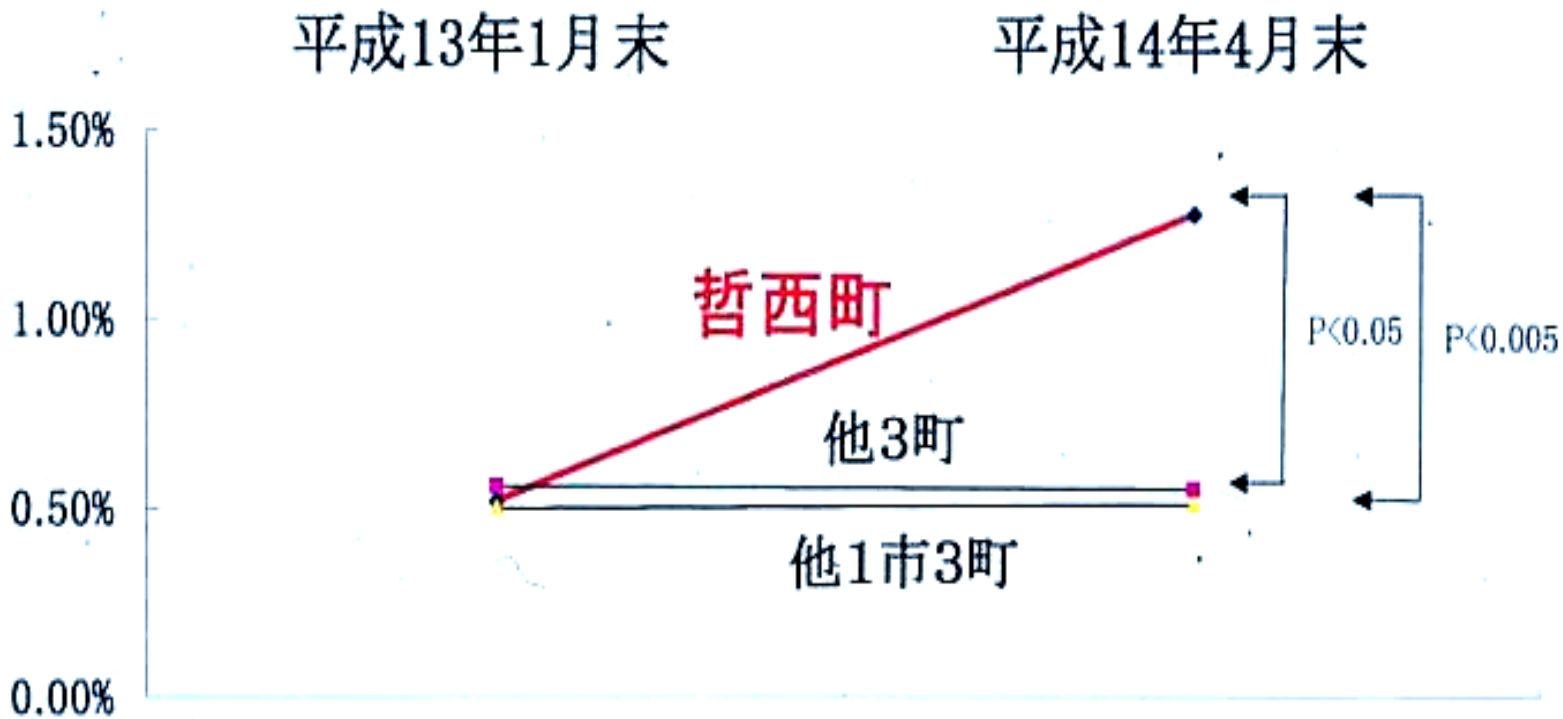


小中学校、PTAが協力し、県内では珍しい小中学生の血液検査を実施し、生活習慣を見直す子供健康づくりネットワーク事業も開始した

基本健診の各地区結果説明会

基本健診の各地区結果説明に医師も参画し、保健活動を強化している。また、健診データーは必ず主治医に知らせ、日常診療に役立ててもらっている。診療所から依頼し、管理栄養士による食事指導も開始した。

特別障害者手当受給者数／65才以上人口（阿新地区）



哲西町	0.52%	6/1146	1.28%	15/1171
他3町	0.56%	19/3389	0.55%	19/3469
他1市3町	0.50%	53/10648	0.51%	55/10841

特障手当の受給者が6人から15人に増加し、同地区の他市町より多くなるなど、連携強化の効果が表れはじめている。

備北民報

第6982号

平成14年（2002年）
11月9日 土曜日
備北民報株式会社
〒718-0003 岡山県新見市高尾2485-8
電話0867(72)0678 FAX0867(72)0635
http://www.bihoku-minpou.co.jp/ www.bihoku-minpou.co.jp/!/

ズームアップ

医療で街が変わる―哲西町の挑戦

診療所開業から1年余りの成果

「役場よりも医療機関がなくなる方が住民は困る」。県境サミット圏域の市町村合併進ちょく状況を取材した際、他県のある町職員は冗談交じりにこう答えた。過疎化、高齢化が進む中山間地域の自治体にとって医療機関が果たす役割の大きさは、この言葉ににじみ出ている。

きて昨秋、哲西町矢田に町民待望の複合施設「きらめき広場・哲西」が完成し診療所も開業した。それから1年が経過し、保健・医療・福祉を一体化させて地域包括医療の道を歩んでいる哲西町の挑戦に迫る。

編集部 柱 孝志

＊＊＊＊＊

診療所開設までの経緯はこうだ。哲西町の人口は約3300人で65歳以上の高齢化率は36%に達している。同町は平成9年に全世帯主を対象にした町民意識調査を行い、「今後どのような施設が必要か」の問いに66・2%が「診療所」と答えた。これを基に行政、教育、保健、福祉、そして医療を一つ屋根の下にまとめる町民総合センター構想を策定。これが「きらめき広場・哲西」だ。

診療所（歯科も）は「きらめき広場・哲西」落成式後、24日遅れの11月1日に開業した。町内唯一の内科医院と歯科医院が相次いで閉院したため、1年2カ月続いた無医町からの脱却を果たした。開業から丸1年たった11月5日現在までの患者数は内科が延べ6825人、歯科が延べ4807人になるという。

医師は島根県邑智郡邑南町（隠岐島）から赴任した自治医大卒の佐藤勝氏。佐藤医師は開業前から積極的に各地に出向いて町の考えを代弁したり、繰り返し健康づくり講演を行った。施設や機材、スタッフといった基盤が整った今年度は日々の外来患者の診察、往診、高度医療機器による検査の合間を縫って保健・医療・福祉を一体化させたきめ細やかな事業を展開している。関係職員とともに定期的に地域ケア会議を開き、一人ひとりの健康状態を把握。基本検診結果を本人に伝える。結果返し。にも看護師、保健師、管理栄養士、ケアマネージャーと出掛けて健康アドバイスをし、食生活の改善を求めた。

また、「子どもの健康づくりネットワーク事業」で町内の小学校4年生、6年生、中学校2年生、保護者を巻きこんで血液検査を実施し、成長期の子供たちに生活習慣を見直してもらうきっかけもつくった。

診察を行う哲西町診療所の佐藤医師

無医町からの再スタート

去る10月14日に「きらめき広場・哲西」で催された第12回福祉健康まつり。地域包括医療の先進地、宮城県涌谷町町民医療・福祉センターのセンター長で、佐藤医師と同じ自治医大卒の青沼孝弟氏は「哲西町はかなりの部分ができている」と評価した上で、「我々のまねでなく独自のシステムをつくって」とエールを送った。青沼氏は「取り組みに対して結果が出るのは10年後になる」と言うが、こんなデータもある。特別障害者手当受給者は昨年度が6人だったのに対し、今年度は15人に増加している。保健・医療・福祉を一体化させ、社会保障制度を周知し該当者を掘り起こしたからで、成果は着実に上がっているようだ。

安らかに生まれ、健やかに育ち、朗らかに働き、和やかに老いる―。人として一番大切なことのように思う。また、平均寿命と健康寿命には617年の差があると言われているが、これを限りなくゼロに近づけることこそ最大の目標になるだろう。深井町長は「目標に向かって着実に進んでいる」とこの1年を振り返り、佐藤医師は「手応えを感じている」と話す。

今後の課題は佐藤医師の負担軽減、青壮年層にも健康に関心をもってもらうことなどがある。しかし、私はあえて市町村合併を一番先に挙げたい。地域包括医療の先進的な取り組みをしている同町にとって、合併によってサービスの質を落とす訳にはいかないからだ。同町は町民の健康づくりを行政サービスの中心に据えているだけに、深井町長は「サービスが低下するような合併はしない」と語気を強める。合併後、同町をモデルとし、他地域のレベルアップが必要なのではないか。そうしないと真の住民の幸せにはつながらない。

町の重点施策をハード事業からソフト事業に転換できるのは、生活基盤や社会基盤整備がほぼ整ったこと、「きらめき広場・哲西」が完成したこと、無医町になったことなどいくつかの偶然があり、それが必然となったからだ。私は11年春、前任者から哲西町担当を受け継いだ。そして今、医療が街を変える瞬間に立ち会っている。

（おわり）

哲西町では、住民の最も切望していた診療所を行政の中心に置き、生活基盤である「医療」に力を入れ、更に保健福祉センターや教育行政も同一施設内に設置した。従来は連携をとることが難しかったスタッフが繋がりをもち、その上を住民が自由に往来できることにより、身近できめ細かい総合的サービスを提供することが可能となった。

まとめ

１「保健医療福祉の充実と一体化」は、健康福祉の分野で一定の効果をを発揮しているが、さらに教育への好影響、地域活性化等の効果も期待できる。地域包括医療イコール保健医療福祉の一体化とされていたが、今後の地域包括医療は、地道な医療活動からはじまり、保健福祉を巻き込むことはもちろん、教育、文化、産業等あらゆる分野に影響を与え、また連携することにより町づくりを大きく変化させていく。まさに「医療」が町を大きく変える。

２ この効果は自治体経営の観点からも重要で、より付加価値の高いサービス提供が人口流出を防ぐ等地域間競争での大きなアドバンテージとなり得る。

３「保健医療福祉の充実と一体化」は今後の町づくりを考える上で欠かすことのできない課題である。